

# 食品衛生指導員の活動

食品衛生指導員 <sup>はぎ</sup> 萩 <sup>はら</sup> 原 <sup>むね</sup> 宗 <sup>お</sup> 夫 (大熊町)

私は、双葉地区食品衛生協会副会長の萩原宗夫と申します。

震災前まで双葉郡大熊町駅前で二葉寿司という寿司屋を経営しておりました。

昭和63年に指導員に委嘱後、28年間双葉地区の指導員として活動してきました。

平成23年3月11日の震災の時には、12～13日と予約が入っていたため店舗が大きく何度も何度も揺れる中でかたづけをして過ごしていました。12日の朝には、防災無線はなっていました聞き取りにくく、茨城交通のバスが数珠繋ぎに走って来た時には『原発が危ないらしい』という噂が立ち、都路村や田村市の体育館を転々とし、やっと三春町の個人の企業に落ち着き体を休めることが出来ました。その後、福島の実家に身を寄せる事になりました。大熊町の家を後にしたときには、着の身着のまま、2～3日で家に戻って来る気持ちでいました。目に見えない放射能がこんなに、怖いものとは、誰も思わず、そしてこんなに長い間、家に帰れなくなるなんて思ってもいませんでした。確か、原発は安全だと教えられていたように思います。

東日本大震災の時には、皆様より温かいご支援を賜りましてこの席をおかりして厚く御礼申し上げます。

さて、双葉地区食品衛生協会の事業再開についても、各個人からの問い合わせがあり、訪問して相談のり指導して来ました。一部避難解除され営業を始める事業者も少しずつ増えて来ましたが、双葉地区食品衛生協会は事務所もなく、福島の食品衛生協会の本部を借用したり、広野町役場の図書室を借用したりして運営してきました。通勤に1か月1200km位走り苦労していました。

また、震災前に実施していた、県の出張相談窓口も開設され、毎週水曜日に富岡合同庁舎と浪江町役場の庁舎を交互に借用し出張相談窓口も開始することができました。

広野町と川内村の帰還は早く、夏の巡回指導を始めた時には情報がないうなか、各店舗を廻ると懐かしい顔見て、色々質問されたり状況を聞かれたりと、施設の巡回時間が長くなりかかりました。震災前の巡回指導より丁寧に長く営業者の悩みや心配事を聞いていたように思います。

双葉郡の復興を目的とした、ふたばワールドという事業が再び始まり、双葉郡の8町村で開催されており、双葉郡の人々などが県内外に避難している住民同志の交流の機会を創出することより双葉地方の人と人、人と地域を再び繋ぎ「ふるさとふたば」の復興に双葉郡の町村が一堂に集まって行う事業です。双葉地区食品衛生協会では、この機会に食中毒・ノロウイルス・O157の予防を一般消費者にチラシ等を配布するキャンペーンを実施しております。今年度は富岡町で9月30日に実施されました。双葉郡の方々だけでなく県内の方々にも、双葉郡の復興を見守って頂ければ幸いです。

最後に我々食品営業者は施設を利用する、お客様に安全な食べ物を提供し、食中毒などの事故を起こさないようにするのが使命です。稀に慣れ、慢心、過信、油断等が食中毒を引き起こす場合があります。

食品衛生指導員は巡回指導の時に食品衛生の原点である整理、整頓、清潔、清掃、習慣づけと清潔・迅速・冷却又は加熱の食中毒予防の3原則である健康管理並びに手洗いなどの大切さを伝えながら指導して行きたいと思っております。そして協会の事業である「あんしんフード君」や「食品賠償共済」への加入も進めたいと思っております。

これからも食品衛生指導員として『安心』で安全な食を提供するため、保健所や食品衛生協会の指導のもと、積極的に活動して参りたいと思っております。